

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	有限会社 サザンクロス		
事業所名	グループホーム宮ノ里		
所在地	岩手県花巻市西宮野目13地割121-2		
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390500122&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者個々のペースに合わせて対応し、出来るだけ本人の意思を尊重するように心がけている。
 ・家庭的な雰囲気を利用者様一人ひとりに合った生活をし、援助しながら、希望を持てる暮らし方を目指したい。
 ・毎月勉強会を行ったり、会議日々のミーティングで情報交換や困っていること等を話し合い、チーム一丸となって良いケアができるように努めています。(なるべく思い違いや職員間でのすれ違いを解消するため)・月2回のスタッフ会議や日々のミーティングでより良いケアができるよう話し合いをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧国道4号線から西に2kmほど入った住宅化が進む閑静な地に立地し、同法人のデイサービスと連携しながら、サービスの質の向上に努力している。
 事業所の特徴的な事柄は、「月2回のスタッフ会議(職員会議)」「日常のミーティングでは積極的に発言、提案がなされ、職員が意欲的に取り組む雰囲気がある」「暖房、厨房等では、火災の危険性に配慮し、床暖・エアコン・IHの調理器具などにより直火を使わないなどの配慮がなされている」「同法人のデイサービスで好評の機能訓練を連携しながら取り入れることを考えている」「地域の協力のもと、2ユニット目が現施設の西側に計画されており、完成後は施設周りを整備し、利用者の希望でもある野菜畑や花壇などを設置する構想を持っている」ことなどが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そっと寄り添う介護」「千差万別・十人十色」を会社の基本理念とし、職員間では「思いやり、ぬくもりのある介護」を介護理念として、全体会議や日々のミーティングを行い情報の共有に努めています。	職員間で話し合い、わかり易い理念を作り上げ、日常の話し合いで、内容を確認しあってサービスの質の向上に努めている。月2回の職員会議は原則全員が出席できるように、午後7時から9時としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周囲散歩や地域行事への参加、施設行事への参加等地域の方々と交流する機会作りを心がけている。夕涼み会、敬老会等で、地域の方との交流を行いました。	地域とのつながりを強くするという理念から、地域の自治会に開設と同時に加入し、連携を深めている。これにより自治会長、行政区長、民生委員さん、消防団員が時々訪れてくれて情報交換を行っている。	地域のボランティアの訪問が時々あり、催しもの利用者は楽しみにしている。地理的に困難なところもあると思われるが、小学生、幼稚園、保育園などの子どもたちが時々訪れるような仕組みづくりが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、地域に向けては活かせていない。今後実践を積み重ね、地域に貢献できるようにしていきたいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回実施しその内容を全職員に回覧している。頂いた意見を少しずつ取り入れながら、実践している。自分たちでは気付かないところをメンバーの方々に意見を頂き、今後の活動に役立てていきたいと思っています。	利用待機者がいることから、現施設と隣接してもう1つのユニットを作る計画が進められている。それにより、職員の交流、勤務対応、特に夜勤などが改善されるものと思われる。会議は2ヶ月に1回は開催され、その記録も残され、職員全員が目を通している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に、市の担当者の方、地域包括の方に意見を頂く等している。不明な点は市の方に確認するようにしています。災害の際は市職員の方から安否確認があり心強く思っている。	運営推進会議には市の担当課(長寿福祉課)と地域包括支援センターの担当者がメンバーになっていて、貴重な助言や意見を頂いている。また、必要により担当課を訪問し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、自施設での内部勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束に関する研修会には積極的に参加し、その報告会、勉強会を開催している。身体拘束に関する「いわて宣言」を施設内に掲げ、遵守するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っている。虐待が無いように注意を払っているし、防止にも努めています。声掛け時には言葉使いを注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な説明をするように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだ十分に行えていないと思います。御意見箱の設置、面会時や月1回のお便りにご意見を頂くような機会を設けたいと考えています。	投書箱等は設置していないが、家族の来訪時や諸連絡のための電話を利用して意見、要望を聞くようにしている。また、「GHだより」を定期的に発行し、施設内での生活を家族にお知らせするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との個人面談、月2回のスタッフ会議の時、日々の小ミーティングに意見を出してもらい、可能な限り反映させていきたいと思っています。	代表者、管理者、施設長との個人面談の機会があり、自分の意見、要望を自由に発言できる雰囲気がある。特に勤務態様、必要な物品の購入等についてはよく対応して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を作り職員が閲覧できる所に保管しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会に積極的に参加するようにしています。月1回の施設内での勉強会では、スタッフが自分でテーマを決めて発表する機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交代でグループホーム協会の勉強会に参加したり、グループホーム協会の交換研修で情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を築く為本人の話を築くように、話す時間を多く取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との情報交換を行っている。面会に来た時に話を聴く機会を増やしていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような生活をして欲しいとか、どのような支援をして欲しいかを聴くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にゆったりと会話をしたり、買い物やがいしゆつをしたり、一緒に時間を過ごしている。利用者の話に耳を傾け、同調し、同じ目線で考えながら、行動している。押しつける言動、態度に注意する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月施設内で行ったことがアを文書で家族に送付し、面会に来れない方にも様子が解るように努めています。家族方に年賀状を書いていただくようお願いしたり、本人の誕生会や敬老会に着て頂くように声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少人数ではあるが、近くの神社にお参りに行ったり、敬老会や誕生会に招待したりしています。	敬老会や誕生会には地域の「お楽しみ会」のメンバーや自治会、民生委員が参加され、大黒舞や踊りの披露などが行なわれ、楽しいひと時を過ごしている。月1回以上は揃って外出する機会をつくり、もみじ狩りや銀河モールでの外食会などを設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、トラブルにならないように努めている。又良い関係が築けるように利用者様同士の交流ができるように努めている。隣同士や向かいの方等お互いに気遣いながら、職員も間に入り仲良く生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの方が退去後は施設入所となっているので、行っていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望や思いをキャッチし記録を付けたり、ミーティング等活用し、職員間で情報の共有に努めている。自分の意見を伝えられる方は希望を聴いたり、手伝ったりし、あまり言葉を発しない方は理解できるように問いかけながら支援する。	自分の意思を伝えられる方にはその思いが実現できるように配慮している。意思表示の困難な利用者については、しぐさや表情から読み取り、望みが叶うように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との情報交換等行っている。個別ファイルを		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティング等で職員間で話し合い情報交換を行い、把握に努めている。職員会議で話し合い一人ひとりの状態や変化等を提起し共通の援助方法を把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り、本人や家族の意見を聴いて、スタッフ会議で意見を聴いて	ケアプランの作成、見直しにあたっては、本人、家族の希望をできるだけ受け入れるように、管理者を交えた職員会議(スタッフ会議)で話し合いをし、具体的な案をケアマネジャーが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化夜本人が口にした言葉等記録し実践につなげられるように話し合っている。個別記録等はチェックし日々の変化や様子を観察するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいないと思います。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 宮ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来てもらい踊りや歌等で楽しんでもらうようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	依頼があれば通院介助を行い、変化夜受診結果を医師から話しがあれば家族へ報告している。又受診の必要がある場合は家族へ連絡をとり対応している。入居前からのかかりつけ医はそのまま継続し、家族や施設職員同行で受診している。	国立病院機構花巻病院、とみつか脳神経、照井内科をかかりつけ医としている利用者が殆んどである。原則的には通院については、家族が行なうこととしているが、緊急時や家族の都合によりできない場合は規定料金で送迎、介助をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化報告を行い、指示を仰ぎ連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前にはリハビリスタッフや看護師に話を聞いたり、サマリーを頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ終末期についての話し合いは行っていません。職員の体制や意識、スキルの向上等今後の課題だと思っています。	ターミナルケアについては、その事例がなかったことから、組織的に話し合われることがなかったが、今後は他のグループホーム等を参考にしながら、スタッフと話し合いを持ち、早めに結論を出すこととしている。	家族の希望、施設側の体制、職員の意識等から難しい面もあると思われるが、早めにそのあり方についての一定の結論が出されることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対して不安があり、訓練を行っていきたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年の一回避難訓練を行っている。3月の地震の時は近所の方がランタンの貸し出しをしてくださいましたが、地域との協力体制はこれからの課題だと思います。	年間2回避難訓練、通報訓練を実施している。職員、および消防本部職員に速やかに通報できる体制が出来ている。この度の震災では混乱したところもあったので、これを教訓にして今後備えたい。	避難訓練の中に、夜間を想定して職員1人での対応訓練等も必要と思われる。また、近隣の居住者にも声がけをして、協力体制の強化が図られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面の介助をするときや、間違いがある時にはさりげなく支援するように努めていきたいと思っています。	トイレ誘導には、特に気を配っている。動作やしぐさからトイレの近いことを察知し、さりげなく誘導するようにしている。入浴時には男性スタッフによる女性介助も本人の了解のもとに行なわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決定できるように、希望を聴くように努めています。今後も職員が勝手に決めることなく、意思を尊重するように努めていきたいと思ひます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で行動しないように話あっている。一人ひとりのペースは大事にしていますが、どのように過ごしたいかは理解できていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った服を家族の方に話し、持って来て頂いている。又理髪店にも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調に合わせて、準備、片付け等できる方には行って頂いている。嫌いなものは把握しています。野菜を食べない方には軟らかくしたり、色々考えています。今現在は一人の方に片付けを手伝って頂いています。	9名中食事作りの手伝いの出来る方1名、後片付けできる方2名で、その他できる範囲で身の回りのことをやっていたらいい。特徴的なことは、食事中はテレビをつけず、BGMでナツメロを流し、静かに食事を楽しむように配慮していることである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつ時以外の水分提供を実施、水分チェック表を活用し少ない方には声掛けを行い、飲みやすい物(嗜好品等)提供心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行えるよう見守り、声掛けを行い不足部分の介助を行い、口腔内清潔保持に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 宮ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが把握できるようにチェック表を活用し、随時声掛けや誘導を行っている。オムツはずし委員会をつくり、一人ひとりに合った排泄ケアの向上に努めている。	職員でオムツはずし委員会をつくり、一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の自立に向けた支援をどのようにすることが望ましいか話し合いを重ね、ケアの向上に努め、良い結果が得られつつある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに、乳製品や食物繊維等便通に良いとされる飲食物の提供を行っている。又、排便チェックを行い、早めの対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前午後入浴を行っており、好きな時間に入って頂けるように声掛けを行ったり、お手伝いをさせて頂き入浴を行っている。入りたくない等の返事があった場合には時間をおいて声掛けを行ったり、次の日にタイミングをみて行っている。	利用者一人ひとりの希望パターンがあり、毎日の方、午前または午後の方、夕方の方、様々であるが出来るだけ希望に沿えるようにしている。バイタルチェックにより体調管理を行い、清拭、足浴等を組み合わせて入浴の支援をしている。感染症対策も行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも希望があった時や、昼食時等声掛けを行い個々に合わせた静養の時間を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬により症状変化等ないか様子を観察を行ったり、職員間で申し送りや記録を行い、確認に努めている。又、変化があった場合は受診し医師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割として、順番に食事前の挨拶号令を行っている。買い物、ドライブ、周辺散歩等時々少人数であるが、時々行っている。ボランティアによる踊りや歌演奏等、カラオケ大会等の行事を企画しています。食器拭きや掃除等して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に1～2回の外食(お食事会)の実施。希望に応じて買い物に行ったり、近くの神社へ散歩をしている。	出来るだけ施設内に閉じこもらないケアを目指して、銀河モールでの回転すしコーナーでの食事会などを計画し、また、希望により買い物時に同道していただき、買い物を楽しんで頂いている。職員の支援のもと、施設周辺の散歩等は日常的に行なわれている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム 宮ノ里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は預かっているが、使いたいと申し出があった時は、本人に渡し買い物等に行っている。(一部の方)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られた人ではあるが、手紙をだしたり、電話をかける際援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花を植え、廊下はホールを中心に西側と南側に一本ずつで浴槽は普通のご家庭と同じ広さの為迷うことなく居心地良いと思います。利用者様の作成した塗り絵や七夕飾りを飾ったり、写真を張っている。	事業所全体がほどよい明るさで、冷暖房も居室、共用空間とも整備され、おだやかに生活できる雰囲気になっている。敬老会や誕生会などの行事の写真を適度に廊下の壁に掲示し、思い出づくりに寄与している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを置き、独りで外を眺めながら過ごしたり、利用者同士交流することができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の家族や本人の写真を張っている。	馴染みのもの、使いたれた思い出の物の持込みは自由で、利用者によっては家族の写真、人形を飾っている方もいる。ベッドは、転倒時の危険をできるだけ防止できるよう、低く設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室に解りやすいように名前を貼り、迷わないようにしている。		